

2015年秋冬のトレンドは ファッションではキメすぎず、メイクでは目もとを強調

株式会社カネボウ化粧品

2015年の秋冬はどのようなファッション&メイクがトレンドになるのでしょうか。カネボウ化粧品美容研究所のメイクアップアーティストであり、トレンドリサーチャーでもある平尾清香(ひらお すみか)が、ポイントをご紹介します。

■ファッション■

～キメすぎずシンプルなアイテムを自分らしく～

春からのトレンドである“70年代要素”(レトロな色&柄、ヒッピーデザインなど)や、キメすぎない“エフォートレス”なファッションは続きます。

そこに新たに加わるのが、“ノージェンダー”というキーワード。メンズ、レディース、年齢などの枠を超え、自分に合うものをチョイスし、シンプルなアイテムを自分らしく着こなすファッションがトレンドになります。

【無理なくイマドキ感が出る！簡単ファッションポイント】

- ① “ノージェンダー”に着こなす
 - ・女性でも、あえてメンズ服を組み合わせ着こなす
 - ・素材やシルエットなどで、男性的な要素を取り入れる。男性的要素の代表例は、厚みのあるウール素材や、シルエットの大きなアイテム(ポンチョ、ワイドパンツなど)。
- ② “70年代要素”を取り入れる
 - ・チェック柄、プリーツ、ラッフル(襟もとなどのフリル、ひだ)、ボウタイといったアイテムを取り入れる
- ③ トレンドカラーを意識する
 - ・この秋冬は、茶、ベージュ、カーキ、ワイン、ネイビーなどがトレンド。例えばシンプルな形のニットでも、トレンドカラーを選ぶだけで今っぽくなります。

■メイク■

～目もと強調メイクと“抜け感”のある肌～

日本では、2013～14年は、太眉と赤みのある口もとに代表されるように、「眉」と「口もと」にポイントを置き、“血色”を感じさせるメイクが主流でした。それがより女性らしい雰囲気へと変化し、この春夏にかけては、ほのかに色っぽいメイクがトレンドになりました。

2015年秋冬も、ほのかに色っぽいメイクの傾向は続きますが、「目もと」のメイクバランスがグッと強くなります。例えばアイラインを目尻よりも長めに引いたり、深みのある色のアイシャドウをまぶたにのせたりと、これまでよりも目もとを印象的に見せるメイクがトレンドになります。アイラインは目頭からひかず目尻側だけに入れる、ラインをぼかす、ブラウン系のアイライナーを使うなどすると、単に目もとが強調されるだけでなく色



ひらおすみか
平尾清香

カネボウ化粧品美容研究所所属。メイクアップアーティストとしてイベントなどのメイクを行う他、10年以上にわたりトレンド分析を担当。女性意識とメイク変遷にも詳しい。

気も演出できます。

ポイントメイクを強くする時には、適度にゆるさを感じさせる“抜け感”の演出も大切です。アイメイクが主張するこの秋冬は、作り込みすぎない自然なツヤ肌で“抜け感”を演出し、口もととは素の唇と同じくらいのトーンで自然な色みに仕上げると、顔全体のメイクバランスがよくなります。口紅では煉瓦色のようなカラーも注目ですが、こうした深い色は唇の輪郭をラフにとったり、つけすぎに注意するなどして特に“抜け感”を出すことを意識しましょう。

【無理なくイマドキ感が出る！簡単アイメイクポイント】

- 目もとを強調しつつほのかな色気を出すためには、アイラインを目尻より1cm程度長くひくのがおすすめです。アイラインをアイシャドウでぼかしたり、ブラウン系のアイライナーを使うなどすると、目もとが強調されながらも自然で違和感のない目もとに仕上がります。アイライナーを使わず、アイシャドウの締め色をライン的に使うのも、ラフさが出て良いですね。
- アイラインを長めにひいたら、眉尻も長めに描くと好バランス。眉は下側を描き足すようにし、ストレート眉に仕上げるとイマドキ感が出ます。
- グレイッシュな色（灰色みを帯びたブラウンなど）や、赤みのあるブラウン（ワイン、ボルドーなども含む）のアイシャドウやアイラインを選ぶのもおしゃれ。赤みのあるカラーは血色を感じさせるため、目もとにしればせることでさりげなく色気を演出することにもつながります。



【イマドキ！アイメイク】
長めのアイラインとストレート気味の眉がポイント。アイラインを1cm長くしても、ぼかせば自然。目もとを強調しながらもほのかな色気を演出できる。

例えば、いつも単色アイシャドウを使っている人なら、複数色を使ってまぶたに陰影をつくる、普段とは質感の異なるアイシャドウを塗る、アイラインを丁寧に入れてみる・・・などいつもと少し違うアイメイクにトライしてみてもどうでしょうか？新たな自分の魅力を発見できるかもしれません。

★参 考 ★

女性のメイクを楽しむ気分や
メイクへの期待が高まっている！

リーマンショックや東日本大震災を経験し、社会不安や人との絆の重要性を再認識した日本では、2011～12年頃、他人受けのよい“自然な美しさ”をいかしたメイクがトレンドになりました。頬にはふんわりとした血色感があり、目もとはカラーレスで、不要なものを省いたやさしさのある仕上がりが特徴で、楽しんでメイクをするという雰囲気はあまり感じられませんでした。

しかし最近のカネボウ化粧品品の調査からは、“メイクを楽しむ”気分が高まっていることがわかっています。また、欠点カバーや異性からの印象アップなど、“メイクへの期待”も高まっており、総じてメイクへの関心が高まっていることが読み取れます。こうしたことから、女性たちのメイクへのチャレンジ意欲も高くなっていると考えられます。

Q. メイクをする意味は？（複数回答）

